

関東ふれあいの道(栃木)「㊸なす風土記の丘をめぐるみち」

2025年3月31日池内淑皓

お彼岸に入って、やっと暖かくなってきた。引き続き関東ふれあいの道を歩く。

今回は、那須地方の風土記ゆかりの地を歩いた。交通の便が悪く、タクシー利用を余儀なくされた。最近は特に路線スのダイヤ縮小が目立つようになり、関東ふれあいの道ウオークもアプローチが存続の岐路に立たされている。



関東ふれあいの道案内板、出発点の「道の駅ばとう」にある



行程概念図 道の駅ばとう～なかがわ水遊園まで 13.3km



最寄り駅は東北本線西那須野駅 横浜を 7 時に出れば西那須野駅には 10 時に着く



駅前から 10:10 発馬頭車庫行のバスに乗る



小一時間バスに乗ると、「道の駅ばとう」に到着する、栃木県では東の外れで茨城県に近い



那珂川に架かる若鮎大橋の袂の道標で、コースを確認する



「那珂川」那須岳山麓を源流として、茨城県大洗町で太平洋に注ぐ。鮎泳ぐ清流



那珂川を渡って国道を横切ると、最初の目的地神田城址への案内が出て来る



「神田城址」国指定史跡 単郭の城跡。

古代から中世にかけて、那須郡一帯を領した那須氏の初代居城。東国初期の武士団の背景が良く分かる築城と云われる



天喜4年(1056)(諸説ある)那須貞信が守護職を賜り築城した 11男、那須与一はここで生まれた



次の目的地は「かたくりの里」カタクリの花は、3月下旬から4月上旬に咲く



前方の里山目指して一目散に歩く



やっと着いたら、まだ咲いていないとの事でがっかり、那須郡は寒い所なのだろう



次の目的地は「なす風土記の丘」目指す。権津川沿いに上流に向かって歩く



「御霊神社」川の袂にある。ここに那須与一の分骨が祀られている
与一は 元暦 2 年(1185)扇の的を射抜いた屋島の合戦で武功を上げた。山城の国で客死する



さらに風土記の丘めざして歩く、風も暖かく快適なウォーク日和



「なす風土記の丘」麦畑の向こうに古民家が並ぶ



古民家が資料館となっている



近在の豪農の屋敷であったと言う



「那須官衙跡」国指定史跡 当時の徴税物を保管した正倉跡



奈良から平安時代にかけて那須地方の中心地として栄えた 昭和 15 年ここで大和古印(銅製)が出土した 重要文化財



次の目的地「法輪寺」へ向かう。箒川を箒橋で渡ると、那須郡那須町と別れて大田原市に入る



大田原市佐良土集落は昔の宿場町であろう、各家の軒には屋号の看板が掲げられている



鄙びてはいるが、静かで落ち着いた町だ



大谷石造りの商店、辰巳屋さん



今日の最終訪問地「法輪寺」天台宗 光丸山大日堂の標柱が立つ



貞観2年(860)慈覚大師円仁が開山 神仏混淆のお寺として有名



御堂には日本一大きい 天狗のお面が安置されている



川の中に奥の院の一の鳥居が立つ。川が参道では無いと思うけど



関東ふれあいの道は境内を通り抜けてゆく



畑の畦道を 15 分程あるくと



明日歩く那須与一の郷への分岐点に出る、ゴールのなかがわ水遊園までは 500m



ゴール。なかがわ水遊園は素敵な水族館があって、大人から子供まで楽しめる大きな総合公園
ここから宿舎の馬頭温泉まではバスが無い、歩くかタクシーを呼ぶ事となる



「馬頭温泉郷」に位置する鄙びた隠れ宿



アルカリ泉のかけ流し。ゆっくり温泉に入って、部屋食の御馳走を頂く

[参考タイム] 西那須野駅(10:10)→馬頭バス停(10:50)→神田城跡(11:00-11:10)→カタクリの里
(12:15-12:50 昼)→那須風土記の丘(14:00-14:15)→法輪寺(15:20)→なかがわ水遊園(15:40)

この項完

「関東ふれあいの道(栃木)㊿昔をしのぶ古墳のみち」に続く